

「鎌ヶ谷市 市民との協働戦略プラン(改訂版《案》)」のパブリックコメントに対する市の考え方

実施期間:平成27年7月15日～8月13日

No.	意見等概要(原文のまま)	市の考え方	計画案修正の有無
1	<p>市民との協働戦略プランを理解する上で、現状の問題点を含め、分かり易くなっていると思います。</p> <p>協働を進める上では、今後、活動している団体等に対しては、分野別に目指す姿等を具体的に明示していく必要があると思います。漠然としたもので市民と協働で試行錯誤しながら具体化していくものも必要ですが、その一方で何をどの様な形で協働の可能性があるのか、どの点で協働の利点を生かしたいのか、各課、各事業ごとに具体化したい目指す姿を、しっかりと市民、活動している団体と共に考え、共有していくことが必要だと思えます。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえながら、協働の対象となる自治会、市民公益活動団体、企業などの多様な主体に対し、「鎌ヶ谷市総合基本計画～後期基本計画」における各施策のねらい(めざす姿)をさらに周知し、共有を図ることで、協働を推進してまいります。</p>	修正なし
2	<p>平成16年度と平成26年度の協働事業数、実施所属数の比較に於いて、10年間で協働事業数が5件の増加、所属数は－1件となっている要因をしっかりと分析する必要があります。庁内体制に起因しているのか、公益団体の事情等に起因するものなのか、それとも双方に起因するものなのかを具体的かつ詳細に分析をした結果、庁内で問題点、要因を共有した上で対策等を検討する必要があるのではないのでしょうか。市が協働推進体制の整備を行っているにも拘わらず、協働事業数の伸び悩みや実施している所属数の減少については、まずはその原因の分析が必要だと思えます。</p>	<p>協働事業数や実施所属数の課題を改善するには、「職員の協働意識の醸成」や、『『市民提案協働モデル事業』の周知によるさらなる活用の促進』などの施策を展開し、改善を図ってまいります。</p>	修正なし
3	<p>行政と公益団体やNPO等の団体等との事業を検討から実施までのスピードの格差についても、検討する必要があると思います。民間企業に比べ、行政は計画から具体化へのスピードが遅いと感じます。スピードの格差が協働を行う上で、協働実施にもたらす影響もあると思います。その点についても、確認、検討、改善の余地があるのではないのでしょうか。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえながら、今後の施策を展開してまいります。</p>	修正なし
4	<p>市民活動推進センターのHPは、行政からのお知らせや利用情報が中心で、実活動している登録団体に直接つながるのは、社会福祉協議会のみようです。HPに工夫の余地があると思います。</p>	<p>市民活動推進センターの登録団体の情報につきましては、同センターのホームページ上における団体一覧にて閲覧が可能であるとともに、登録団体が行っている活動等の記事につきましても、登録団体からの要望に基づき、同ホームページ上に掲載しておりますが、今後も、より利用しやすいホームページとなるよう、施策「市民活動推進センターの強化」等の中で検討してまいります。</p>	修正なし

「鎌ヶ谷市 市民との協働戦略プラン(改訂版《案》)」のパブリックコメントに対する市の考え方

実施期間:平成27年7月15日～8月13日

No.	意見等概要(原文のまま)	市の考え方	計画案修正の有無
5	<p>市民協働の観点から、戦略プランの中では公益団体が中心となっていますが、鎌ヶ谷市の場合は、市民が参加しやすい環境の整備については、市民活動推進センターのHPで、もっと積極的なアピールも可能だと思います。例えば、虐待、DV防止週間にその週間のテロップと関連する活動団体を紹介する、防災の日には災害ボランティア関連、オリンピック開催時には、国際交流やスポーツ関連の団体、敬老の日には福祉関連の活動をしているボランティア団体といったように、関連した実活動をしている団体を紹介する、情報を流すといった工夫も可能だと思います。</p>	<p>市民活動推進センターのホームページの運用につきましては、施策「市民活動推進センターの強化」等の中で検討してまいります。</p>	<p>修正なし</p>
6	<p>HPや寄せられた意見などを見る限り、市に対してサービスの提供や身近な地域の問題解決や改善を求める要望等が圧倒的で、市民協働の基本となるパブリックコメントには、寄せられる声は少数です。できるだけ市民の目を向けてもらい、建設的な提案を得られるような工夫が必要だと思います。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえながら、パブリックコメントのさらなる周知方法につき、検討してまいります。</p>	<p>修正なし</p>
7	<p>庁内における市民公益活動団体との協働事業数とありますが、事業数を伸ばすことありきではなく、団体の活動ありきで、それを活かす形での協働であって欲しいと切に願います。団体の活動や個性が尊重されるものでなければ協働や連携も有益とは限りません。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえながら、「職員の協働意識の醸成」の各施策を展開してまいります。</p>	<p>修正なし</p>
8	<p>協働を行う上で、協働ありきではなく、行政のビジョン、各団体やボランティアの活動、考え方を互いに示し、お互いの立場と考え方を理解、共有した上で、より良い協働が図られるように配慮して欲しい。団体の活発な活動や良い事業がなされなければ、協働は成り立たないという基本を庁内で確認、共有して欲しいと思います。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえながら、「職員の協働意識の醸成」の各施策を展開してまいります。</p>	<p>修正なし</p>

「鎌ヶ谷市 市民との協働戦略プラン(改訂版《案》)」のパブリックコメントに対する市の考え方

実施期間:平成27年7月15日～8月13日

No.	意見等概要(原文のまま)	市の考え方	計画案修正の有無
9	<p>公益団体、ボランティア団体に於ける構成年齢の高齢化は大きな問題です。みなさん一生懸命に活動をされていますが、他若い年代の世代の意見や考え方を聞く機会が非常に限られています。市の審議会も平日の日中ということで、全体的に参加者の世代や意見を徴収できる年代に偏りが生じてしまっていると感じています。他の世代や若い人を取り込むためには、次世代の人材育成の観点からも、違う世代の意見徴収や各世代の考えを反映した企画やアイデアの活用、関わり方の工夫などが必須ではないでしょうか。団体の活動を推進していく上で、活動や運営ばかりに捉われがちですが、これまで団体活動を担ってきた世代が、後任を育てていくという視点も大切だと思えます。若い人がどの様な関わり方であれば活動が可能なのか、また活動(会議・準備等を含めて)若い人や働く世代が関わり易いような柔軟な対応も取り入れる必要があると思えます。その点の周知や問題共有の機会を設け、各団体の自助努力に加えて情報サポートなどが図られると良いと思えます。</p>	<p>市民公益活動団体等の後継者不足や、若者、働き盛り世代の市民活動への参加などの課題につきましては、「幅広い年代への団体活動情報の提供」、「団体を担う人材の育成」、「団体が抱える問題や悩みごとに対応する相談体制などの充実」、「市民活動推進センターの強化」などの各施策を展開することにより、積極的に対応してまいります。</p>	<p>修正なし</p>
10	<p>庁内に於ける協働推進体制の強化とありますが、庁内でも各課をコーディネートする人材(コーディネーター)もしくはそれに代わるものが必要だと思えます。縦割り行政の弱点をカバーする庁内コーディネーターまたはその役割を果たす繋がりを作る仕組み作りが必要ではないでしょうか。例えば、環境課で扱うみどりのカーテンを子ども課の親子でみどりのカーテン日誌コンテストや健康増進課の食育やメタボ対策事業と連携、外国人対応や防災に関して、市民生活部安全対策課と企画政策課で情報共有や意見交換するなどができると思えます。市民との協働と同時に庁内各課の協働も同時に進めて欲しいと思えます。大都市ではない市の特徴、小さい市だからこそできる利点が十分に活かされていないように感じます。行政と市民双方にとってまた庁内の地域活性化推進委員会が、その役割を果たすこともできるのではないのでしょうか。</p>	<p>「職員の協働意識の醸成」の各施策を展開するとともに、庁内における情報共有や意見交換をよりいっそう進めることで、各課のさらなる連携を図ります。</p>	<p>修正なし</p>

「鎌ヶ谷市 市民との協働戦略プラン(改訂版《案》)」のパブリックコメントに対する市の考え方

実施期間:平成27年7月15日～8月13日

No.	意見等概要(原文のまま)	市の考え方	計画案修正の有無
11	<p>「職員の協働意識の醸成」とありますが、協働を実現する為に団体をサポートするのではなく、活発な市民活動を実現する為のサポート、プランや施策が、結果として行政と市民双方にとって充実した協働に繋がるようにして欲しいと思います。結果的に協働事業の実績数を追うことが主眼になってしまい、団体の在り方や特性が後回しになってしまうような協働は、絶対に避けて頂くよう注意して欲しい。数字よりも学びや実の大きい協働実現を目標として欲しいと思います。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえながら、「職員の協働意識の醸成」の各施策を展開してまいります。</p>	<p>修正なし</p>
12	<p>時には行政が協働を対象とする団体の事業に参加、体験したり、実際に実活動を手伝うなどして、人的労力の支援があっても良いと思います。補助金という活動資金に対する支援だけでなく、人的労力の支援を通じて机上の理解では得られないものや新たなアイデアのきっかけにもなると思います。また職員のボランティア意識の醸成、双方の立場の理解にも繋がると思います。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえながら、今後の施策を展開してまいります。</p>	<p>修正なし</p>